

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高・特	教科科目	日本史						得点	
------	-----	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

1（4点×15）

【地理】

問1	ア	問2	レアメタル	問3	ファブレス企業
----	---	----	-------	----	---------

問4	酪農	問5	循環
----	----	----	----

【日本史】

問6	岩宿遺跡	問7	二毛作	問8	エ
----	------	----	-----	----	---

問9	二・二六事件 (2.26事件)	問10	日ソ共同宣言
----	--------------------	-----	--------

【世界史】

問11	東インド会社	問12	ウ	問13	プロテスタント
-----	--------	-----	---	-----	---------

問14	ア	問15	世界恐慌
-----	---	-----	------

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高・特	教科科目	日本史						得点	
------	-----	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

2（4点×5）

問1	オ	問2	イ	問3	ウ
----	---	----	---	----	---

問4	イ	問5	エ
----	---	----	---

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

3 (30点)

藤原不比等は、娘である光明子を聖武天皇のもとに嫁がせ、天皇家と関係を築いた。藤原四子らが長屋王の変を起こし、長屋王を失脚させ、光明皇后を擁立した。その後、藤原仲麻呂が孝謙天皇の時代に光明皇后の信頼のもと、政界で勢力をのぼした。仲麻呂は、橘奈良麻呂の変を鎮圧し、淳仁天皇を即位させ、恵美押勝の名を賜り、経済的特権を得て権力を独占し、太政大臣にのぼった。孝謙上皇の信頼のもと、道鏡が勢力を伸ばすと恵美押勝の乱で滅ぼされた。孝謙上皇が称徳天皇に重祚し、道鏡が法王として権力を伸ばし、仏教政治を行なった。称徳天皇が亡くなると道鏡は失脚し、下野薬師寺に退けられた。その後、藤原式家の藤原百川らが、長く続いた天武天皇系の皇統から天智天皇の孫である光仁天皇を迎え、律令政治と国家財政の再建を目指した。

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

4 (30点)

1876年に日本が日朝修好条規により朝鮮を開国させて以後、朝鮮国内では親日派勢力が台頭した。

しかし、1882年に親日派の閔氏政権に対し保守派の大院君を支持する軍隊が漢城で反乱を起こし、これに呼応して民衆が日本公使館を包囲する壬午軍乱が起こった。反乱は失敗に終わったが、これ以後、閔氏一族の政権は日本から離れて清に依存しはじめた。これに対し、日本と結んで朝鮮の近代化をはかろうとした金玉均らの独立党は、1884年の清仏戦争を好機と判断し、日本公使館の援助を得てクーデターをおこしたが、清軍の来援で失敗した。この事件で悪化した日清関係を打開するために、政府は伊藤博文を天津に派遣し、清の全権李鴻章との間に天津条約を結んだ。これにより日清両軍は朝鮮から撤兵し、今後同国に出兵する場合には、互いに事前通告することになり、当面の両国の衝突は回避された。1894年、朝鮮で東学の信徒を中心に減税と排日を要求する農民の反乱である甲午農民戦争がおこると、清は朝鮮政府の要請を受けて出兵するとともに、天津条約に従って日本に通知し、日本もこれに対抗して出兵した。日清両国は朝鮮の内政改革をめぐって対立を深め、交戦状態に入った。同年8月、日本は清に宣戦を布告し、日清戦争が始まった。

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

5 (10点×4)

(1)

1019年に沿海州地方の遊牧民族である遼支配下の女真族の賊船50余りが対馬・壱岐から博多湾に侵入した。これを大宰権帥藤原隆家らに率いられた在地の武士団が撃退した。藤原隆家は、兄伊周とともに道長と争い、左遷されていたが、許されて中納言に復帰して大宰権帥を兼ねていた。この事件は、当時の九州にも武士団が作られつつあったことを示している。

(2)

荘官や地頭が在地に土着し、経営基盤を確立して領主層に成長した武士である国人が、自らの自立的な地域権力を作り、領主権を守るため結成した地縁的集団。南北朝の動乱の中で大きな役割を担うようになった守護大名への対抗や、自主的に相互間の紛争を解決したり、力をつけてきた農民を支配したりするために契約を結び、地域的な一揆を形成した。

(3)

1918年、シベリア出兵を当て込んだ米の投機的買占めが横行して米価が急騰すると、7月に起きた富山県での騒動をきっかけに、都市労働者や貧農・被差別民らが米の安売りを求めて買い占め反対を叫び、米商人らを襲って警官隊と衝突するなど東京・大阪をはじめ全国的な大騒擾となった。政府は軍隊を出動させて鎮圧にあたったが、責任を追及する世論の前に寺内正毅内閣は総辞職した。

(4)

1949年、法隆寺金堂壁画を模写中に出火し、大半の法隆寺金堂壁画が焼損した事件をきっかけとして、伝統的な文化財を保護するために1950年に制定された。従来の国宝保存法などの保護関係法律をまとめ、その内容を充実させた。国宝や文化財、その他の芸能など、国家的保護を行う。

令和9年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）解答例

受験校種	高・特	教科科目	日本史						得点	
------	-----	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

6 (20点)

【単元の主題】

もし自分が阿部正弘や井伊直弼であったら、アメリカに対してどのように対応したか。

【授業の展開例】

○ 本時のねらい

- (1) 日本が開国に至った過程を国際環境と関連付けて理解する。
- (2) 開国の背景や影響について協働的に学び、考察する。

○ 指導上の留意点

- (1) 指導の内容は基本的な事項を中心とし、細かな点や高度なことには深入りしない。
- (2) 視覚教材や資料を積極的に活用し、社会状況の変化をとらえさせる。
- (3) 話し合いや発表の場を設定して、言語活動を重視した授業展開を図る。

○ 具体的な展開例

(1) 復習と導入

開国前の国内や国際環境の変化について、基礎的な事項を確認する。

(2) 日米和親条約の締結について

- ア 国内でどのような意見があったか教科書や情報端末で調べさせ、グループで共有させる。【②に相当】
- イ 日米和親条約はどのように締結され、どのような内容であったか、考察させる。【①に相当】

(3) 日米修好通商条約

- ア 日米修好通商条約の内容について説明する。
- イ 日米修好通商条約の締結による影響について、考察させる。【①・②に相当】
- ウ 自分が幕政担当者であったらどのような意見を持ったか、ペアで対話させる。【③・④に相当】

(4) 本時のまとめ

- ア 本時の学習内容について、ペアワークで授業内容を振り返らせる。
- イ 本時の取り組みについて自己評価を行い、本時の到達すべき目標に達していたか確認させる。
- ウ 次時の学習内容を予告し、教科書を通読してくることを指示する。